

■瀬島龍三 陸軍参謀として作戦を指揮、シベリア抑留から帰還後、伊藤忠商事を差配、特異な権力機関第二臨調を主導した。

せじまりゆうぞう

大逆事件判決1911= 富山県西砺波郡松沢村鷺島で、農業の傍ら郡役所で徴兵事務に当たる瀬島龍太郎の三男に生まれる。

明治天皇没・1912= 1歳：

ロシア革命・1917= 6歳：松沢小学校に入学、成績優秀で、「早くも、一目置かれる存在であった。

大暴落・・・1920= 9歳：

原敬首相暗殺1921=10歳：

関東大震災・1923=12歳：卒業し、名門とされる富山県立砺波中学校に進む。

治安維持法・1925=14歳：父は、以後10年、村長を務めるほどの有力者であった。砺波中学から唯一の合格者として、「東京の陸軍幼年学校」に入学し、以後、寮生活。

世界恐慌・・・1929=18歳：

海軍軍縮条約1930=19歳：5、6番で卒業し、「陸軍士官学校」に進む。

満洲事変・・・1931=20歳：

五一五事件・1932=21歳：五・一五事件に参加して放校処分になった者がいた第44期であったが、「次席(トップは原四郎)で卒業。富山歩兵第35連隊附で陸軍歩兵少尉に任官。戦術や戦史の研究に熱中し、ここでも一目置かれている。

帝人疑獄事件1934=23歳：陸軍歩兵中尉に昇進。

芥川直木賞始1935=24歳：千葉にあった陸軍歩兵学校で、通信教育を受講後、中国戦線に移動、北京で、陸軍大学の初審を受け、陸軍歩兵大佐松尾伝蔵の長女清子と結婚後、

二二六事件・1936=25歳：岳父松尾伝蔵が、二・二六事件に際し、義兄岡田啓介首相の身代わりとなって反乱部隊に殺害された。東京で再審を受けて合格し、「陸軍大学」に入学。

日中戦争始・1937=26歳：陸軍歩兵大尉に昇進。「がむしやりに戦術の勉強に励み、優れた才能を発揮して、教官に目をかけられ、

健保+総動員 1938=27歳：\*第51期を首席で卒業。名譽の御前講演は「日本武将ノ統帥ニ就テ」。以後、エリートとして遇され、

第二次大戦始1939=28歳：満洲の関東軍隷下の第4師団参謀、第5軍(司令官は土肥原賢二陸軍中将)参謀の見習いを経て、東京の参謀本部第一部第二課(作戦課)配属になる。以後、6年間の異例の長さを、参謀本部に籍を置き続ける。

大政翼賛会・1940=29歳：大本営陸軍部作戦課配属となって、ソ連領侵攻を視野に入れた作戦立案にあたり、

日米開戦・1941=30歳：陸軍少佐に昇進。「第1部第2課作戦班長補佐になって、辻政信班長ら10期近い先輩と同格に扱われ、

・・・1942=31歳：「南東(ガダルカナル)方面の作戦に際しに格上げとなるが、

創価学会検挙1943=32歳：「現地の作戦と噛み合わず、結局、全面撤退に追い込まれた。反東條派岡田啓介の義弟の娘が妻であったことから、東條内閣に敗戦主義者と見られ、陸軍内でも遠ざけられ、

兼軍令部部長。のちに、レイテ島の悲劇を生んだ張本人だったことが判明。「伝書使として、佐藤尚武駐ソ大使に戦局を説明すべく、モスクワに出張(敗戦後にソ連から重罪とみなされる原因になった)後、

敗戦・・・1945=34歳：「戦死した大本営陸軍・連合艦隊・中部太平洋方面艦隊参謀島村矩康陸軍大佐の後任に選ばれ、海軍の連合艦隊参謀兼務となり、陸軍中佐に昇進、作戦行動に熱中するうち、岡田の身代わりと言われる鈴木貫太郎内閣になり、親戚の迫水久常と終戦方策を密談するうち、関東軍作戦参謀として満洲へ追いやられる。初めて前線に出てまもなく、敗戦。総参謀長秦彦三郎陸軍中将と停戦交渉後、捕虜として、シベリアへ抑留。

新憲法公布・1946=35歳：「おそらく、ソ連に参謀本部内の対ソ作戦計画を告白したことで、草場辰巳陸軍中将、松村知勝陸軍少将とともに、極東国際軍事裁判の連合ソ連側の証人に選ばれ、東京へ護送され出廷(草場は拒否して自殺)。

新憲法施行・1947=36歳：この年から、モンゴルのウランバートルのソ連市民と同待遇という第7006俘虜収容所で特殊訓練を受け、

朝鮮戦争始・1950=39歳：通常の戦犯として、ハバロフスクの第二十一分所に移されてからは、団長として特権的待遇を受け、

独立回復・・・1951=40歳：ソ連側にも日本人捕虜にも、人心掌握に長けた面をみせ、厄介な問題は起きなかったが、

メデー事件・1952=41歳：団長を罷免され、以後、他の捕虜同様、ハバロフスク市内で、左官などの労役に従事。

自衛隊発足・1954=43歳：この年起きたソ連スパイの「ラストロボフ事件」に関連して、自首してきた志位正二、朝枝繁春元少佐は、ソ連に協力したことから、早くも帰国しており、同時に、種村佐孝元大佐が第7006俘虜収容所で訓練を受けて共産党員になっていたことなどが明らかになっている。

国連加盟・・・1956=45歳：鳩山一郎首相訪ソによる日ソ国交回復宣言の結果、「シベリア抑留から帰還(松村も)。舞鶴港で拘禁尋問。日本の情勢把握に努め、友人知己を訪ね、シベリアからの復員兵の就職斡旋に奔走、膨大な日本陸軍史「北方戦備」をまとめ、密かに防衛庁戦史室に寄託。防衛庁に入る案は旧軍人への抵抗から立ち消えになる。

インフラテーマ・1958=47歳：おそらく、軍時代の人物の縁で、「伊藤忠商事」に入社。嘱託採用、係長待遇、毎年更新の条件だったが、

安保闘争・・・1960=49歳：「繊維依存の伊藤忠の多角化を図ろうとする越後正一が社長になるや、伊藤忠商事航空機部長に抜擢され、

タイタイ病始・1961=50歳：「早くも業務本部長、とくに防衛庁への航空機売り込みで重要な役割を果たして、異様なスピード出世、

全国総合計画1962=51歳：その後長く若手社員の教典になる「STAFF 勤務ノ参考」を執筆、瀬島軍団と呼ばれる精鋭が育つ。

TV宇宙中継始1963=52歳：\*防衛庁のバッジ・システムにヒューズ社の採用決定という大成果を挙げ、常務取締役になる。

大学紛争始・1965=54歳：

いざなぎ景気1966=55歳：東亜石油の株を買い占めて石油部門に進出、

霞ヶ関ビル・1968=57歳：「第二次FX機種選定に関する機密漏洩事件では、この商戦に不参加だったことから無傷で、専務取締役に、

全典闘い・1969=58歳：中国人通訳の亡命問題で、日本が国府の怒りを買った際、自民党親台湾派のために訪台し、根回し。

日中国交回復1972=61歳：ハーバード大学で「一九三〇年代より大東亜戦争までの間、日本が歩んだ途の回顧」という講演。「副社長。

石油ショック1973=62歳：関西汽船と提携して地中海クラブを設立するなど、様々な分野で大きな成果。この年から刊行の始まった防衛庁防衛研究所の戦史叢書「大本営陸軍部 大東亜戦争開戦経緯」の執筆協力。{文藝春秋}の作家司馬遼太郎との対談で、「オイルショックに対する恐怖を語り、

角栄金脈辞任1974=63歳：「極秘文書が暴露されて、伊藤忠が衆院予算委員会が悪徳商社と罵倒され、越後も社長から退くと、後任の戸崎社長のもと副社長になるも権限は縮小され、社内で孤立するようになってか、この年から、突如週刊誌等のインタビューに応じ、組織論などを語り始める。

成田衝突・・・1978=67歳：「越後の後任として、実権のない会長に祭り上げられる一方、永野重雄日本商工会議所会頭に請われ、日本商工会議所特別顧問、東京商工会議所副会頭に抜擢される。以後、財界活動を活発に行うようになり、永野の参謀として太平洋経済協力委員会やASEANの民間経済会議などに出席、

・・・1981=70歳：伊藤忠相談役。\*永野の推挽と中曽根康弘行政管理庁長官の後押しで、第二次臨時行政調査会委員に就くや、土光敏夫会長のもとで参謀役として主導、「臨調の官房長官」と称され、一気に国民に名が知られる。

中曽根内閣・1982=71歳：土光も眉を顰める独走ぶり、\*中曽根内閣が成立すると、政策を次々実施、

デイズニエント 1983=72歳：「臨時行政改革推進審議会(行革審)の委員にも選ばれ、6つの小委員会の委員長として実権を振るい、

・・・1984=73歳：富山歩兵第35連隊史刊行会会長。「これらの功で、勲一等瑞宝章。臨時教育審議会でも委員に選ばれ、日韓関係が悪化するなか、大韓民国の軍事政権の全斗煥や盧泰愚等とは、彼等が若手将校時代から親しく、戦後初の公式訪問となった中曽根首相の訪韓や全斗煥大統領の来日や昭和天皇との会見の実現に奔走、

バブル始・・・1986=75歳：「新行革審では、日本経営団体連盟会長大槻文平を会長とし、その代理として全てを差配、

竹下内閣・・・1987=76歳：富山歩兵第35連隊史が完結すると、瀬島のことは一行も書かれず。「伊藤忠相談役を退任し、特別顧問。

ドイツ統一・・・1990=79歳：{文藝春秋}に、手記「戦後最大の空白 日ソ停戦交渉の現場」を発表して、当時の内容を明らかにする。

バブル崩壊・1992=81歳：

オムロン事件・1995=84歳：「幾山河 瀬島龍三回想録」、

金融破綻・・・1997=86歳：「祖国再生：わが日本への提案」、

・・・2000=89歳：「大東亜戦争の実相」。「伊藤忠商事特別顧問を退任。

イラク戦争・2003=92歳：「瀬島龍三 日本の証言：新・平成日本のよふけスペシャル」、

・・・2007=96歳：「入院中ながら、安倍首相の『美しい国』づくりに対し、諸企業、団体のトップと連盟で、森と水資源に関する提案書を提出するなど、なお意気軒昂であったが、妻が死去した後を追うように老衰で、没した。